

21:1 さてイエスが、目を上げてご覧になると、金持ちたちが献金箱に献金を投げ入れていた。

21:2 また、ある貧しいやもめが、そこにレプタ銅貨二つを投げ入れているのをご覧になった。

21:3 それでイエスは言われた。「わたしは真実をあなたがたに告げます。この貧しいやもめは、どの人よりもたくさん投げ入れました。

21:4 みなは、あり余る中から献金を投げ入れたのに、この女は、乏しい中から、持っていた生活費の全部を投げ入れたからです。」

21:5 宮がすばらしい石や奉納物で飾っていると話していた人々があった。するとイエスはこう言われた。

21:6 「あなたがたのしているこれらの物について言えば、石がくずされずに積まれたまま残ることのない日がやって来ます。」

21:7 彼らは、イエスに質問して言った。「先生。それでは、これらのことは、いつ起こるのでしょうか。これらのことが起こるときは、どんな前兆があるのでしょうか。」

21:8 イエスは言われた。「惑わされないように気をつけなさい。わたしの名を名乗る者が大ぜい現われ、『私がそれだ。』とか『時は近づいた。』とか言います。そんな人々のあとについて行ってはなりません。

21:9 戦争や暴動のことを聞いても、こわがってはいけません。それは、初めに必ず起こることです。だが、終わりは、すぐには来ません。」

やもめがささげた金額は少ないものでした。しかし主イエスは「どの人よりもたくさん投げ入れまし

た。」と言っておられます。主はささげる人の心をごらんになるからです。心のこもった、そして精一杯のささげものを、喜んでみましょう。また奉仕もそのようにして、「たくさん…」と主に言っていただけのようにしましょう。

またこのやもめのささげものは、誰よりも主のお役に立ちました。多くの人がある純粋な信仰に励まされたからです。私たちも、他の人の信仰を促すようなささげものをしましょう。金額も主に用いられることは当然ですが、そればかりでなく霊的な恵となることを心がけましょう。霊的なささげものをしましょう。

弟子たちは都であるエルサレムの建造物を見て驚きましたが、イエス様は「石がくずされずに積まれたまま残ることのない日がやって来」と言われました。それは後のローマ将軍タイトスの攻撃で実際に起こったのです。神殿が燃えた後に溶けた金を取り出すために、石はすべてバラバラにされたのでした。

そのようなことへの備えや警告として、イエス様は方法論ではなく、本質的なことを言われました。方法論では「惑わされ」してしまうからです。私たちは今から常にイエス様を見つめ、またイエス様の声に耳を傾けましょう。身の回りに起こることは、方法論では惑わされるからです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

